

平成28年度 兵庫県立農業大学校評価シート

【教育目標】

国際化する農業に対応するとともに、地域社会の多様化等、変化の激しい農業に対応する幅広い知識、高度な農業技術及び経営管理能力を修得させ、地域社会の有為な形成者となる意欲的な農業の担い手と地域農業を牽引する指導者を養成する。

【重点目標】

① 次代の農業を担う意欲の高い学生の確保
② 実践的教育の充実・強化
③ 多様な進路に向けた学生指導の充実
④ 学生の自主活動の活性化

【達成度】の基準

A 目標を上回っている
B 目標通り進捗している
C 目標を下回っている

重点目標：① 次代の農業を担う意欲の高い学生の確保

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議委員会の意見提言等	達成度
〈 現状 〉 - 平成22年度以降は応募者が概ね定員を超えて推移している。 - オープンキャンパス参加者の多くは入学試験に応募しており、学生募集の有効な手段となっている。 - 普通高校や非農家からの入学が増えつつある。 - 女子学生の割合が高くなる傾向にあり、平成26年以降は3割を超えている。 〈 課題 〉 - 農業に対する意欲の高い学生の確保 - 多くの応募者から選ばれた優秀な学生の確保	オープンキャンパス、学校訪問、イベント、ホームページなど様々な機会やツールを活用して農大の魅力を情報発信し、農大に対する高校生たちの関心を高め、入学応募者を増加させる。	〈 方策 〉 ○年2回のオープンキャンパス開催とオープンキャンパス以外の個別見学者の積極的受入 ○学校訪問(学生募集)の実施 - 農業高校への学校訪問及び学生募集 - 農業高校だけではなく普通高校へも進出 ○広報活動の推進 - 市町、農協、普及センター及び高校等に対する農大のPR活動 - ホームページによる情報発信 - オープンキャンパスを含む各種イベント開催の記者発表 - 各種イベントへの参加及びその場でのPR活動 〈 指標 〉 - オープンキャンパス参加者：60人以上 - オープンキャンパス参加者に対するアンケートでの農大入学希望：7割以上 - 県内の高校で開催される進路ガイダンスに赴いての学生募集：10校80人以上 - 入学試験応募者数：定員40名以上 - ホームページによる情報発信：月2回以上	○オープンキャンパスの充実強化 - 回数は前年と同じ2回の開催(8月2日・18日)であったが、参加募集の段階から当日のイベント内容に至るまで工夫を凝らすことで参加者を急増させた。 H27 61名 → H28 81名 アンケート調査では57名(70.4%)が農大に入学したいとの回答であった。 - オープンキャンパス以外の個別見学にも積極的に対応した。 H27 6回 → H28 8回 ○学校訪問による学生募集の強化 - 県内の高校で開催される進路ガイダンスの場に赴き、農大への進学を強くPRした。 H27 14校86人 → H28 15校104人(2月末現在)年度末までに18校となる予定。うち5校は普通高校。 ○広報活動の推進 - 学校案内、募集ポスター及び学生募集要項を市町・農協・普及センター等関係先に配付した。(6月) - ホームページでの情報発信は、システム上のトラブルにより更新できない状況に陥った。年度内に新しいシステムを構築する予定。 H27 37回 → H28 8回 - オープンキャンパスや収穫祭などの主要なイベントの開催を記者発表した。 H27 16回 → H28 17回 新聞等への掲載 9回 - 新しい農業を目指す高校生等の集いに参加し、農大と各農高の学生が意見交換会(11月17日) - 農大収穫祭(11月19・20日)及び県民農林漁業祭(10月22・23日)等に参加して農大をPRした。 ○学生寮の改修工事 - 老朽化していた男子風呂を改修した。(女子風呂は昨年) ○積極的な学生募集活動による応募者数の急増 - 競争率が1.9倍になった。 - 応募者数 H27 54名 → H28 76名 76名内訳(推薦30、前期31、後期15) 女性20 - 競争率 H27 1.4倍 → H28 1.9倍	- 農業大学校における教育の内容を広く知らしめ、幅広い人材の確保を図ることは今後においても重要であることから、引き続き、効率的、効果的なPRに努める。 - オープンキャンパスや学校訪問などのイベントを利用したPR活動は現状を維持しつつ、ホームページやマスメディアなどのツールを利用した情報発信はより一層強化する。	- 受験者の増加の要因は、オープンキャンパスの受け入れ人数の増加と在校生との意見交換の実施など、内容の充実を図ったことである。 - 高校3年生のオープンキャンパス参加者の2／3が受験している。 - 在校生との意見交換をすることで全寮制への不安も払拭されている。 - 入学資格を25歳以下に制限していることが、県外の高校生が受験しやすい条件となっている。 - ホームページは管理を外部委託するなど更新がしやすい条件を確保してはどうか - 就農支援センターから首都圏の大学すべてにパンフレットを送付した、東京農大からは反応があったので、もっと軽いPR資料を作成し、県内全高校に配布するなどはどうか。 - 問い合わせのあった学生へのメール送信も効果がある。	A 目標を上回っている

重点目標：② 実践的教育の充実・強化

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議委員会の意見提言等	達成度																																																															
〈 現状 〉 ・ 普通高校出身者の増加に伴い、入学時に学生間の農業に関する知識・技術の格差が拡大している。 ・ 教育目標・方針に沿ったカリキュラム編成を毎年見直している。 ・ 実習を重視した実践的な教育を行っているが、キャリア教育が不十分 ・ 資格の積極的な取得を奨励しており、主要な資格には担当職員を充てて濃密な指導を行っている。また、大型特殊自動車運転免許や家畜人工授精師等は授業に組み込んでいる。 〈 課題 〉 ・ 農業の基礎学力の充実と学生の技能・知識の向上 ・ 教育目標・方針に基づく実践的な農業教育の実施 ・ 専修学校として特色ある学校づくりを推進 ・ 卒業論文課題研究の中に経営的な視点を入れ、厳しい農業情勢の中にたくましく発展的な農業経営を続けるノウハウや信念を養成する必要がある。	農業の基礎的・基本的知識を確実に習得させ学力向上を図る。 資格試験・検定試験のチャレンジ、合格率向上	〈 方策 〉 ・ 各種事業や制度を利用した実践型教育を強化するための環境整備 ・ 基礎学力向上への取組：1 学年末には農業に必要な計算、文書読解、文書作成を履修 ・ カリキュラム編成委員会の設置、委員会による教育課程の編成 ・ 実習計画の十分な検討、計画に基づく実習実施 ・ キャリア教育を実施（コミュニケーション能力、ペン習字、ビジネスマナー教育） ・ 多くの機会を捉え資格取得を奨励する。 ・ 直売施設（夢花菜）や県民農林漁業祭、収穫祭等での販売体験を通じて、原価計算や経営管理能力を養う。 〈 指標 〉 委員会の提言を受けた新たな取り組み 資格・検定試験の合格者・合格割合の目標 ・ 大型特殊免許（農耕）：卒業生全員合格 ・ 農業機械利用技能者：7 割合格 ・ 指導農業機械利用技能者：5 割合格 ・ 毒劇物取扱責任者：5 名以上合格 ・ 危険物取扱者：10 名以上合格 ・ 農業技術検定3 級：全員合格2 級：7 割合格1 級：1 名以上合格 ・ 家畜人工授精師：畜産課程全員合格 ・ フォークリフト、アーク・ガス溶接、小型車両建機：全員合格 ・ 全国プロジェクト発表会での発表、上位入賞 ・ 懸賞論文応募：5 名以上 ※ 過去の受検・合格状況から目標値を設定 ○特色ある学校づくりを推進するため、6 次産業化教育の充実強化を図った ソフト対策：東洋食品工業短期大学との連携協定(7 月) ハード対策：農産物加工施設の整備(12 月) これに伴い「6 次産業化論」を新設し、「食品加工」は講師を東洋短大から招聘するなどカリキュラムを見直した。 ○実践型教育を強化するため、JA 共済連兵庫からの寄贈による農業実習用機械の整備を行った。(11 月) 農業用トラクター 2 台、リフト機能付き運搬車 1 台 これにより雇用就農後、即戦力となる教育が可能となった。 ○実践型教育を強化するため、刈払(草刈)機取扱作業者特別教育の受講を新設した。(5 月) ○学業等奨励制度により学生の意欲を向上させた。 ・ 知事賞、校長賞授与：成績、学習態度が優秀な学生 ・ 同窓会長賞：成績優良かつ欠席、遅刻等がない勤勉な学生 ・ 鶏梨会学生支援奨励：資格・免許取得数の多い学生 ○直売施設（夢花菜 毎週金曜）を始め、県民農林漁業祭への出店や農大収穫祭において、生産物の販売実習を行った。 ○プレジール(全農兵庫直営レストラン)の兵庫県フェア(6 月)に食材を提供することで生産物販売及び農大の PR を行った。 ○畜産の実践教育環境を向上させるため、牛舎の移転整備に着手した。(11 月～) <table><tr><th colspan="4">H28 卒業生の資格・免許取得実績</th></tr><tr><th>資格・免許名称</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th><th>合格率</th></tr><tr><td>大型特殊免許(農耕)</td><td>39</td><td>39</td><td>100</td></tr><tr><td>農業機械利用技能者</td><td>39</td><td>27</td><td>69</td></tr><tr><td>指導農業機械利用技能者</td><td>9</td><td>7</td><td>78</td></tr><tr><td>毒劇物取扱責任者</td><td>4</td><td>1</td><td>25</td></tr><tr><td>危険物取扱者</td><td>14</td><td>1</td><td>7</td></tr><tr><td>農業技術検定 3 級</td><td>28</td><td>26</td><td>93</td></tr><tr><td>2 級</td><td>25</td><td>7</td><td>28</td></tr><tr><td>1 級</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>家畜人工授精師</td><td>10</td><td>10</td><td>100</td></tr><tr><td>フォークリフト</td><td>29</td><td>29</td><td>100</td></tr><tr><td>アーク・ガス溶接</td><td>26</td><td>26</td><td>100</td></tr><tr><td>小型車両建機</td><td>28</td><td>28</td><td>100</td></tr><tr><td>全国発表会での発表</td><td colspan="3">1 名、優良賞</td></tr><tr><td>懸賞論文応募</td><td colspan="3">延べ7 名</td></tr></table>	H28 卒業生の資格・免許取得実績				資格・免許名称	受験者数	合格者数	合格率	大型特殊免許(農耕)	39	39	100	農業機械利用技能者	39	27	69	指導農業機械利用技能者	9	7	78	毒劇物取扱責任者	4	1	25	危険物取扱者	14	1	7	農業技術検定 3 級	28	26	93	2 級	25	7	28	1 級	1	0	0	家畜人工授精師	10	10	100	フォークリフト	29	29	100	アーク・ガス溶接	26	26	100	小型車両建機	28	28	100	全国発表会での発表	1 名、優良賞			懸賞論文応募	延べ7 名			・ 6 次産業化教育をさらに強化するため、東洋食品工業短期大学との連携や整備した農産物加工施設の利活用を活発にする。 (例 1) カリキュラムの見直し 食品加工 → 食品加工Ⅰ、Ⅱ (例 2) コラボによる食品開発 農大の生産物を東洋短大で加工する食品の開発を検討する。 ・ 農業技術・知識の習得のため、引き続き各種資格取得に向けた支援や意識付けを行うとともに、学生の意欲や習熟度を考慮した実践学習の充実を図る。 ・ 実践型教育を強化するため、JA共済連兵庫による支援制度をさらに活用し、より高度化・専門化する農業教育に対応できる環境整備を行う。 - 整備予定の機械・施設 - いちご高設栽培システム - 多目的田植機 - 環境制御装置 など ・ 畜産の実践教育を向上させるため、円滑な牛舎移転と必要な備品購入等により、安全かつ効率的な教育環境を整備する。	・ 雇用就農先から農業大学校生は他より実技面で1 ランク上であることが期待されている。 ・ 資格取得の取組みは評価できる。合格者数だけでなく資格取得に向けた学生の意欲を評価してはどうか。 ・ 資格・免許には取得が難しいものもあり、2 年間かけて取得を目指してもよい。 ・ 資格・免許の取得だけでなく、刈払い機が故障した場合の対応など実際に使えるよう実践的な指導を望む。 ・ 機器を使用する実習は、安全面に配慮して進めたい。 ・ 農産物加工施設の整備にあわせ、講義の充実、他大学との連携により農大産農産物の加工を進めたい。	A 目標を上回っている
H28 卒業生の資格・免許取得実績																																																																					
資格・免許名称	受験者数	合格者数	合格率																																																																		
大型特殊免許(農耕)	39	39	100																																																																		
農業機械利用技能者	39	27	69																																																																		
指導農業機械利用技能者	9	7	78																																																																		
毒劇物取扱責任者	4	1	25																																																																		
危険物取扱者	14	1	7																																																																		
農業技術検定 3 級	28	26	93																																																																		
2 級	25	7	28																																																																		
1 級	1	0	0																																																																		
家畜人工授精師	10	10	100																																																																		
フォークリフト	29	29	100																																																																		
アーク・ガス溶接	26	26	100																																																																		
小型車両建機	28	28	100																																																																		
全国発表会での発表	1 名、優良賞																																																																				
懸賞論文応募	延べ7 名																																																																				

重点目標：③ 多様な進路に向けた学生指導の充実

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議委員会の意見提言等	達成度																																								
〈 現状 〉 - 法律に基づく無料職業紹介事業により、進路担当者を定め、個々の学生に対する就職相談・指導に取り組んでいる。 - 非農家出身で生産基盤を持たない学生が増加しており、就農の形態も自営就農だけではなく、農業法人等への雇用就農が増加している。 - 直近5年間（H23～H27）の進路決定率は97％であり、就農率は38％、就職率は52％（うち農業関連産業等は45％）で、進学率は7％である。 〈 課題 〉 - 学生の進路決定率及び就農率の向上を図る。 - 卒業後の多様な進路に対応できる教育活動を実現する。	きめ細かい進路指導、進路希望や活動状況の把握、進路決定のための情報提供 卒業後の多様な進路に対応できる進路指導	〈 方策 〉 ○就職支援活動の強化 - インターネット接続環境整備による情報収集支援 - 個人面談を年3回以上実施 - 面接・マナー講座を開催 - 個人情報ファイルの作成、職員の情報共有 - 就農希望者への特別教育の実施 - 青年就農給付金関係の説明会、相談会の開催 - 農業関連企業志望者への特別教育の実施 - 学生からの希望に応じたハローワーク等からの求人情報の収集と、模擬面接会等への参加を推進する。 - 農業法人を含む就職対策の取り組み強化 〈 指標 〉 - 進路決定率：100% - 就農、農業関連企業内定率：80%以上	○1年生インターンシップ（農業法人派遣研修）を実施した。（10/17～19の3日間） 雇用就農を受け入れている県内のJA等出資の6農業法人での研修により雇用就農の実際を学んだ。 ○2年生インターンシップ（農家等派遣実習）を実施した。（原則9～10月の40日間） 先導的農家等で40日間の農業経営と農家生活を実践体験し優れた経営感覚と豊かな農業観や職業観を学んだ。 ○上記の公式行事以外にも、学生が個々に自ら希望して3日間から1週間程度の農家研修を行った。（1年生 3名、2年生 11名） ○研修棟にインターネット接続環境（Wi-Fi）を整備し、学生による活発な情報収集を可能にした。 ○個人面談を実施した。 校長1回、就職担当2回、その他専攻・担任による面接は随時行った。 ○面接・マナー講座を開催した。 採用試験前の面接練習は随時行った。 ○個人ファイルの作成と職員間での情報を共有した。 求人者管理票及び求職者管理票を作成し、学生への就職紹介と合否を進行管理した。月1回の職員会議や随時開催の教務会議等で職員間の情報を共有した。 ○ひょうご就農支援センター及び各農業改良普及センターと連携した新規就農希望者へのサポートを実施した。 <table><tr><td colspan="5">28年度卒業生の進路内定（29年3月現在）</td></tr><tr><td colspan="2">卒業生</td><td>39</td><td colspan="2">内訳</td></tr><tr><td rowspan="2">就農</td><td>自営</td><td>1</td><td>14</td><td rowspan="5">35 (90%)</td></tr><tr><td>農業法人雇用</td><td>13</td><td>(36%)</td></tr><tr><td rowspan="4">就職</td><td>農協等団体</td><td>16</td><td>21</td></tr><tr><td>農業関連産業</td><td>3</td><td>(54%)</td></tr><tr><td>公務員</td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>その他産業</td><td>3</td><td>(8%)</td></tr><tr><td colspan="2">進学等</td><td>1</td><td>(2%)</td><td rowspan="2">4 (10%)</td></tr><tr><td colspan="2">未定</td><td>0</td><td></td></tr></table> 進路決定率：100％ 就農率：36％ 農業関連：90％	28年度卒業生の進路内定（29年3月現在）					卒業生		39	内訳		就農	自営	1	14	35 (90%)	農業法人雇用	13	(36%)	就職	農協等団体	16	21	農業関連産業	3	(54%)	公務員	2		その他産業	3	(8%)	進学等		1	(2%)	4 (10%)	未定		0		2年生を対象にした農家派遣研修、1年生を対象にした農業法人への派遣研修などインターンシップは継続実施 - 農大を会場とした求人企業の合同説明会の開催 - 農業生産法人協会と連携した就職相談会の開催 - ハローワーク支援員と連携した就職セミナー開催	- 進路決定率100%は入学者が進路を選ぶ上で魅力的である。 - 高校進路ガイダンスでは進路への興味が高いので、現状をアピールしている。 - 農業大学のパンフレットに就職先を明記するようにした。 28年度は雇用就農者にはインターンシップの実施、就職希望者には試験に向けた面接対応の指導に力を入れた。 - 農大卒業生の雇用就農定着率は高校生よりは高いが、一般社会人より低い、就農に対する覚悟の問題ではないか、継続的なインターンシップで就農への覚悟を身につけさせてほしい。 - 農家派遣研修は、農家出身以外の学生にとって、農業に対する思い込みと現実の違いを理解させる良い機会である。 - 大学編入は専修学校卒業生を受け入れる大学に限られる。英語の試験がないところを受験する傾向がある。一昨年編入した学生が29年度に県職員として採用された。	A 目標を上回っている
28年度卒業生の進路内定（29年3月現在）																																														
卒業生		39	内訳																																											
就農	自営	1	14	35 (90%)																																										
	農業法人雇用	13	(36%)																																											
就職	農協等団体	16	21																																											
	農業関連産業	3	(54%)																																											
	公務員	2																																												
	その他産業	3	(8%)																																											
進学等		1	(2%)	4 (10%)																																										
未定		0																																												

重点目標：④ 学生の自主活動の活性化

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議委員会の意見提言等	達成度
〈 現状 〉 - 本校は全寮制であるため震災や火災発生時の学生の安全性確保を万全にする必要がある。 - 寮内の整理整頓が不十分であり改善の余地がある。 - 収穫祭や東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会等の行事運営が、学生の自主的な活動で実施されていない。 - 学生間のトラブル等による学生処分事案が年数件発生する 〈 課題 〉 - 危機管理体制の構築 - 学生生活指導の充実改善 - 寮の環境美化と快適な寮生活の実現	危機管理マニュアルの更新 学生生活環境の整備改善 社会規範意識を高め、基本的生活習慣の適正化	〈 方策 〉 - 震災、火災時の対応に役立つ防災訓練を消防署の協力のもと実施 - 交通、防犯、防災講座を通じ社会的ルールへの遵守 - 寮生活（自治会活動）を通して社会人としての心構えを学ぶ 講義受講態度、実習取り組み態度 自動車等使用許可、防犯・防災意識 健全な寮生活 - 学生自ら企画運営する農大収穫祭において販売実習を実施（再掲） 〈 指標 〉 - 学生活動の年間スケジュールによる計画的執行 - 寮の環境美化と快適な寮生活の実現	- 消防署の協力により、学生及び職員参加による防災訓練と消火訓練（5月）を実施した。 - 警察署の協力により、交通安全講習会（4月、7月、12月）実施を実施した。 - 地元自治会との学校周辺環境美化作業（5/20）や校内環境整備活動を毎月（年間12回）実施し、校舎・寮に対する美化意識を醸成した。 担当職員による寮内環境の定期的な点検、改善指導を実施した。 - 学生相互の一体感醸成のために登山及びスケートを行事として取り入れた。 高御位(加古川市)登山（1年生 4/22） スケート（姫路セントラルパーク）（2年生 1/30） - 校舎及び寮内での喫煙場所や、寮談話室の夜間使用時間の制限など、学生自治会の自主的ルール化を誘引した。 寮生活における遵守事項や連絡確認のための自治会集会を開催し、寮内で発生した問題を話し合った。 - 規則違反や問題行動をとる学生に対し、その都度教務会議で対応を協議、担当職員で情報を共有化し、指導の一体化を図った。 また、問題のある学生に対して個別指導を行い、反省と改善を促した。 - 学校行事（スポーツ大会、農大収穫祭等）を通して、学生間の仲間づくりを進めた。 近畿・東海ブロック農大スポーツ大会（6/1-3） 青年クラブ意見交換会（6/24） 県民農林漁業祭（10/22-23） 青森県営農大学校訪問（10/26） みかた和牛会と農大生との交流会（11/2） 東洋食品工業短期大学とのフットボール大会（11/16） 新しい農業を目指す高校生等のつどい（11/17） 農大収穫祭（11/19-20） 農業青年クラブ技術交換大会（11/29）	- 学校周辺の環境整備等のボランティア活動拡充 - 地元自治会活動、イベントへの学生自治会としての積極的参加 - 寮の環境美化と快適な寮生活の実現 - 学生の自主活動推進のため外部機関による研修等の実施 - 引き続き学生が企画運営する販売実習を継続し、加工品など販売品目の充実を検討 - 登山やスケート等のレクレーション要素を新たに取り入れ、学生の団結力を一層強化	1年生が行う園芸、畜産当番の進め方は、実習で行うことと区分して考えて欲しい。（実習、卒論でやるべきことまで当番にさせるべきではない） - 灌水は農業の基本であり、全員が習得すべきである。専攻にかかわらず視野を広げられるよう様々な作業に取り組んで欲しい。 - 自治会長は、過去の自治会長からの意見を聞くなどして、自治会長としての多くの悩みを解決していった欲しい。 - 最初の登山では1年生の輪が広がったように思う。 - 女子学生も多く、自治会活動の運営は難しいと思うが、基本的に学生自治に任せているので、農大生としての規律を守った生活ができるようよく相談してすすめて欲しい。	B 目標通り進捗している